南風（なんぷう）
【題字】南　クワ初代理事長
発行所
鹿児島市田上八丁目
21番3号
学校法人　南学園
鹿児島医療福祉
専　門　学　校
TEL（099）281-9911

「真愛」の心が紡ぐ 地域の笑顔

学校長　瀬戸上　護

新学期が始まり十日余り経った昼下がり、外から女子学生の笑い声が聞こえてきた。書類から目を離して声がする方に視線を向けると、校長室の南側にある桜の木を囲むように置かれた腰掛けに座って、楽しいランチタイムが繰り広げられようとしていた。入学して間もなく仲良くなった一年生だろうか。どことなく初々しさが漂い微笑ましい光景である。正面玄関を入ると直ぐ目に入るこの桜は、一本は本校開設の記念樹で、もう一本は平成十三年度卒業生一同から贈られたものらしい。

三月下旬、前校長先生との引継ぎで初めて本校を訪れた時は、ほんの数輪しか開花していなかった。寒い日が多く、鹿児島の満開は四月五日頃になるとの予報に、丁度一年生の入学を歓迎し、新学年を迎える在校学生を祝福してくれると気持ちが膨らんだ。ところが四月一日、初出勤の朝、まさに満開であった。出勤途中目にした桜は、未だだったのに、どうして本校の桜はもう少し待てなかったのかと少し気持ちがしぼんだが、南学園での私の第一歩を激励してくれているようで嬉しくもあり、学校長として気の引き締まる思いでもあった。そんなことを思い出しながら、若葉薫る桜の木の下で弁当を広げる彼女たちに、「空気も旨いし、弁当も旨い。おしゃべりは特上のデザートだね」と心の中で声を掛けながらボーッと眺めていると、「年年歳歳花相似たり　歳歳年年人同じからず」という一句が胸をよぎった。記念樹を植えてくれた方々の思いをたぐると、大きく根を張り堂々としてきたこの桜は、毎年この地で花を咲かせて新入学生を歓迎し、学園の学びをずっと見守り続け、四千二百人を超える卒業生を輩出してきた四半世紀余りの貴い時の重さを伝えてくれる。

南学園には人を優しい気持ちにしてくれる独特の空気がある。この空気は、建学の理念「真愛」を追求し、学生、教職員が共に研鑽を重ねてきた歳月によって創られたものであろう。

本校は、助産、看護、歯科衛生、理学療法、介護福祉の五つの学科を有し、相互に連携して医療福祉の世界で活躍する真の専門職業人を育成することを使命として、社会の要請に応えてきた。人の命と向き合う医療福祉の分野で活躍するためには、高い専門性（知識・技能）が求められるのは当然のことである。国家資格の取得は、その分野に第一歩を踏み出すための必要な条件ではあるが、専門性は常に磨き続けられるべきものであり、そのためには学ぶ姿勢が身に付いていなければならない。この学ぶ姿勢の根幹をなすものは、他人の心身の痛みや不安に敏感で、何とかして少しでもそれらを和らげ、苦痛から解放し、笑顔を取り戻してやりたいという無償の人間愛ではないだろうか。本校の建学の理念「真愛」に至るものと考える。

今、我が国の少子高齢化は加速的に進展し、人口減少の局面に入り、地方の高齢化率は益々高くなってきた。各行政機関も「地方創生は待ったなし」の掛け声のもと将来の数値目標を掲げ様々な施策を打ち出している。大切なことは、高齢者の尊厳を守り、互いに支え合いながら自立的に暮らせるような地域づくりであると考える。

医療福祉の専門性を身に付け「真愛」の心を培った本校の学生は、このような地域づくりに大いに力を発揮するものと確信している。「真愛」の心で一人ひとりの高齢者に語りかけながら互いの繋がりを創り、それぞれの地域で世代を超えた豊かな人間関係づくりに活躍してもらいたい。

また、そのような活動を通して、激動の時代を乗り越えてこられた高齢者から、人としての美しい生き方を学び、地域の伝統や文化を受け継ぎ、誇りを持って次世代に伝えていきたいものである。笑顔溢れる元気な地域の中で、自分自身の人生も真に豊かなものとなり、その彩りを増していくであろう。

「真愛」の心が学園内に留まらず、学生とともに県内各地に広がって、先日目にした桜の木の下でランチを楽しむ学生の光景が、世代・性別を超えた笑顔あふれる光景として、それぞれの地域に広がってほしいと願っている。

平成二十八年度入学式挙行
～夢の実現に向かって新たなスタート～

四月六日、本校体育館において平成二十八年度入学式が多くの来賓・保護者のご臨席のもと盛大に挙行された。

式では、五学科二〇四名の新入生に対し、瀬戸上護学校長から「今、この南学園に新しい出会いを得た皆さんは、高い志を持って、同じ目標に向かう学びの集団であり、一人一人の魂は、互いにより強く共鳴し、切磋琢磨しながら、心を耕し、知識を深め技術を磨きあうとともに、『為せば成る』のプラス思考で、粘り強く努力する決意を新たにしてください。絶えず脱皮を繰り返し、その努力の結果として、卒業というゴールに立つ自分に、努力の金メダルをかけてください」との式辞が述べられた。

新入生を代表して看護学科の池田露羽さんが、「私たち新入生一同は、医療や福祉の世界で活躍するという大きな目標に向かって新たな一歩を踏み出します。社会に貢献できるよう日々精進するという強い決意と信念を持って多くのことを学ぶとともに、本校建学の理念『真愛』を身につけ、医療と福祉に携わる者としての責任と自覚を持ち、素晴らしい伝統と校風を築いていくことをここに誓います」と力強く宣誓した。

平成二十七年度南学園創立記念講演会

講師　山之内千絵　本校看護学科卒業（五回生）

去る三月十七日に南学園創立記念講演会が開催された。講師は本校看護学科（五回生）の卒業生で、現在は、米盛病院看護部ＩＣＵ／ＥＲに看護師として勤務されている山之内千絵先生である。山之内先生は、本校卒業後、海外留学を経て、名古屋第二赤十字病院に入職され、日本赤十字社国際救護派遣要員に登録の後、海外において数々の国際救援活動に従事し大きな功績を残されている。

講演会では、演題の「今、私たちにできること～国際救援活動を通して～」をテーマに、先生が従事されてきた海外での国際救援活動を通して、そこで体験された様々な出来事や感じられたことを話していただいた。特に「世界に目を向けて、情報を自分で取りにいく必要がある」「情報を鵜呑みにしない、必ず自分の目で確かめる」など難民キャンプでの体験を通した言葉は、在校生をはじめ本校教職員の心を打った。講演は、「今、私たちにできること」について「自分がこうしたいからこうするのではなく、相手のために何ができるか」と考えて行動することが大切であるという言葉で締め括られた。講演後、質疑応答の時間には在校生からたくさんの質問があった。在校生の心に響いた非常に意義ある講演であった。

心耳

人生の処方箋

副学校長　濱川　光代

休日にふらりと書店に立ち寄る。新聞や書店のベストセラー案内を参考にその日の気分で本を選ぶ。小説、エッセイ、自己啓発本などなど。

最近手にしたのはアドラー心理学の本である。アドラーの教えをもとに多数の本が出版され、仕事や子育て、人生の悩みなどで多くの読者の共感を得ているという。アドラー心理学の基本的な考えは、「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」というものである。何となく共感できる。私たちが感じる様々な悩みは人との関わりの中で生じるものであり、周りに振り回されず生きていくことが大切だと記してあった。そのためには、「他者からの評価に囚われないこと、他者からの承認を求めるのではなく貢献すること、人に自分の考えを押し付けず相手を尊重することでより良い人間関係を築くことができる」と。

この言葉の解釈は人それぞれであろう。周りの人に嫌われまいと振る舞い、すこし窮屈な生き方をしている自分に気づかされた。また、他者を真から尊重する思いを持って接しているだろうかと自分に問いかけてみる。日々の繁雑さに追われ、物事を深く考えたり、自分自身のあり様を見つめることを忘れがちである。これらの本を通して、肩の力を抜いてもっと自分らしく生きればいいのだというメッセージを感じた。

読書によって、さまざまな人間の生き方を学び、貴重な教訓や反省を読み取ることが度々あった。私にとって、読書ほど人生の処方箋的な役割を果たしているものはないと感じている。少し心にゆとりをもって、部屋の隅に積んである本を読みたい。そして、学生さんたちにも少しでも本に触れる機会を持って欲しいと願っている。

「二〇二五年問題」と求められる介護福祉士の役割

介護福祉学科　学科長　久留須直也

最近「二〇二五年問題」という言葉をよく耳にするが、一体二〇二五年に何が起こるというのだろう。

現在のところ、二〇二五年には団塊の世代（昭和二十二年～二十四年の間に生まれた人で、約八〇〇万人とされている）が後期高齢者（七十五歳以上）となり、併せて、六十五歳以上の高齢者は三六五七万人（全人口の三〇・三％）と、約三人に一人が高齢者となると予測されている。

このままでは高齢者施設及び介護職員の不足は顕著で、特に介護職員については二〇二五年までに、現在より約一〇〇万人増の約二五〇万人が必要と推計されている。

これらの要因により、日本における社会保障費（介護・医療費等）は膨大なものになる問題のことを「二〇二五年問題」と呼んでいる。

国も「二〇二五年問題」について対策を考えている。厚生労働省によれば、二〇二五年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進するとしている。

現在、介護職員の活躍の場は様々な施設や事業所など（以下、施設等）多岐にわたっている。二〇二五年に向けた右記システムの構築において、大きな役割を担うのは介護職員の中でも特に「介護福祉士」である。「介護福祉士」は所属施設等におけるマネジメント（管理的業務）だけではなく、他施設等のネットワークの構築、様々な社会資源（サービス等）のコーディネート、さらに新たなサービスの構築を目指すなど、施設内の役割に留まらず、地域における役割も担えるスキルが求められる。

今後求められる「介護福祉士」は、単に介護技術を提供する専門職ではない。利用者の思いを受け止めながら、住み慣れた地域で最期まで安心して自分らしい生活を送るための知識・技術・価値を持ち合わせた人材を育てていきたい。

雨の中の新入生歓迎会

実行委員長　理学療法学科二年　徳田　誠也

四月二十三日、健康の森公園で新入生歓迎会が実施されました。本校全学科、全学年が参加する一大行事です。入学したばかりの一年生にとっては、同級生だけではなく、学科・学年を越えて交流を深められる貴重な機会です。

開会式では各部活動のキャプテンによるユニークな部活動紹介があり、また先日発生した熊本地震の被災地支援の募金の呼びかけも行われました。メインイベントのクラス対抗ドッジボールでは、あちこちで応援の声が響き、大いに盛り上がりました。グラウンドでサッカーをしたり、体育館を借りてバドミントンをしたりして交流を深めることができたと思います。

今年は、途中から雨が降りだし予定より早めに終了となりましたが、参加者は雨が降っていても楽しく過ごせているように思いました。

歓迎会を振り返って感じたことは、学年・学科に関係なく、多くの人とコミュニケーションを図り、交流を深めることができたことです。これらの経験は、これからの学校生活やチーム医療を行う現代の医療現場で必ず役に立つはずです。同じ目標を持つ仲間と共に目標に向かっていくための良いきっかけ作りにもなった歓迎会でした。学科は違っても同じ学校で学ぶ仲間として、お互いに助け合いながら目標達成・夢実現のために努力していきたいと思います。

南星ホール前に「真愛」の記念碑が完成

本校三号館の南星ホール入口横に本校の建学の理念である「真愛」の記念碑が完成した。平成二十八年三月卒業生一同から寄贈された大理石の素晴らしい石碑で、創立二十八年を誇る本校に相応しい記念碑となった。

本校の目指す教育の本質を的確に表した言葉となっているこの石碑が本校学生の心の支えとなりシンボルとなっていくことだろう。この石碑を目にして、決意を新たにし、自分の夢実現のために日々努力してくれることを期待している。

新入生宿泊研修

～決意あらたに～

看護学科一年　北　麻衣

五月十九、二十日、一泊二日の宿泊研修が青少年研修センターで行われました。

一日目は、まず理事長の講話がありました。理事長は私たちが今後、大切にしていかなければならないことを丁寧にお話して下さいました。その中でも「今を大切にしている、その時その時を精一杯生きている人は、明るい未来が待っている」との言葉は、日頃からそう思っていたものの、実行できていない自分にささりました。今日を境に、今を大切に行動しようと思いました。

午後は、フィールドアスレチックで体を動かしました。なかなか険しい道のりでしたが、仲間と共に励まし合い、助け合いながら進み、絆が深まった様に思います。また、道を進みながら鹿児島弁も学びました。ユニークな発想でおもしろいと感じました。

夜は、灯のつどいがありました。灯の火を見つめながら、今の自分を振り返り、また、どのような看護師になりたいかを再確認する、とても貴重な時間でした。各クラスの出し物も大いに盛り上がり楽しい一夜を過ごしました。

二日目は、薬物乱用防止教室でスタートしました。これまでも薬物乱用防止教室に参加したことがありますが、「一回の薬物の使用が一生を棒に振る」ということを再確認しました。

演習の時間には、グループを作り、仲間と自己紹介をしたり、意見を出し合って問題を解いたりと普段話せなかった人とも交流が出来、楽しかったです。

午後からは、梶原先生による「こころの健康」の講話がありました。先生の講話の中で私が気になったところは、「人は他人から見られるとうまくできない」という点です。私も誰も見ていなければできるのに人前ではうまくできないといった経験があります。緊張と上手く付き合い、人前に出てもいつも通りの力が出せる様にしたいと思いました。

入学してからの一ヶ月、目の前の生活や課題、環境の変化で頭が一杯になり、「看護師になる」という目標を失いかけていました。今回の研修で、目標をぶれずに持ち続けること、強い意志を持つことの大切さを改めて感じました。また、次の予定を考え、動くことの重要性も感じたので、今後の日々の学校生活の中で実践していきたいと思います。

常識を疑う力を養おう

助産学科　非常勤講師
新名主雪絵

「カジュアルな服装で来ていいよ」と言われたら、あなたはどんな服装で行きますか。ある老舗ホテルでインターンシップをした大学生は、半ズボンにサンダル履きという格好で行きました。ホテルの実習係りの方はその姿に驚き、「常識で考えたらわかるだろう。ホテルでのインターンシップなんだからその格好ではだめだよ」と怒ったそうです。その大学生はカジュアルな服装を気軽な普段着と解釈していました。一般に半ズボンにサンダル履きの学生は大学でよく見ます。彼らの常識ではそれがカジュアルな服装なので、なんの疑問も抱かずに実習先に着ていってしまったのです。もし彼が知り合いの社会人に一言でも相談していたら、きっと適切で「常識」的な服装を教えてもらっていたことでしょう。

ここで何が問題だったかというと、実習先のような企業の社会人にとっての「常識」と学生の「常識」にずれがあったという点です。同じ「常識」でも中身が違っていたのです。ホテルというお客様に最高のサービスを提供する職場の社会人にとって、服装は最も気を遣う部分です。直接お客様に接しなくても、いつどこで誰に見られても大丈夫なようにと身だしなみを整えることが「常識」です。一方、学生にとっての服装は、学生服やスーツ着用と言われない限り何を着ても良いというのが「常識」です。つまり「常識」だと思われていることは、立場や環境によって異なり万人に共通したものではないのです。

さてここで問題です。「公園で出会った社長と秘書の絵を描いて下さい」皆さんはどんな絵を描きますか。日本では一般的に男が社長をし、その補佐役の秘書を女がすることが多いので、社長を男、秘書を女とした人が多いのではないでしょうか。今では大勢の女性が社長として活躍していますし、また秘書は何も女性でなければならないと決まっているわけではありません。しかし、「常識」としてリーダー役は男性、補佐役は女性というイメージがまだまだ強く、それによって男女の役割を決めつけてしまっていることが多いようです。

これは「性別役割分業意識」といって「夫は外で仕事をし、妻は家事や育児に専念する」などといった性別による役割が男女本来の本分であるという考え方です。最近は男女平等の理念が浸透し、女性の社会進出に伴ってこのように考える人は若者を中心に少なくなりましたが、まだまだこの意識に基づいた常識は社会に多く見られます。しかし、年齢や立場、環境、そして時代や文化などが違えば、我々が日常で当たり前だと思っている「常識」も違ってきます。例えば、女性が育児や家事に専念する主婦業は産業革命以後になって初めてはっきりと誕生したもので、昔からあったものではなかったなどがその一例です。

しかし問題なのは、その常識によって生きづらさやしんどさを感じてしまう人々がいるということです。女性が家を守るべきという常識によって社会に出て仕事をしづらくなってしまう、母親だから育児をするのが当然と女性にばかり負担がかかってしまうなど、常識によって苦しめられている現状がまだまだあります。ですから、普段はあまり考えずに受け入れてしまっていることを「なぜそうなっているのか」「別なようにはならないのか」と問い直し、「昔からそうなのか」「他の社会ではどうなのか」と比較してみることが大切です。

医療や介護をする中で、これから接する方々は年齢も生まれ育った環境も違い、当然、価値観や常識というものも違うために、皆さんの「常識」によって誤解が生じたり、しんどさを生み出してしまうかもしれません。医療や介護関係を志す者にとっても、当たり前のことから距離をとってみることが必要です。ぜひ「常識」を疑う力を養っていきましょう。

母校の教壇に立つ

歯科衛生学科
専任教員
中野　麻美
（平成二十一年卒業）

鹿児島医療福祉専門の歯科衛生学科を卒業して早くも十年の歳月が過ぎました。幼少期は歯医者で働くという漠然とした夢でしたが、中学生の頃に歯科衛生士という資格があることを知りそれからは歯科衛生士になることが夢になりました。本校に入学し、いざ講義が始まると口と歯以外にも学ぶ科目の多さに驚きました。十八回生は三年課程の一期生になります。今思うと歯科医院から先生方への期待、プレッシャーはすごいものがあったと思います。そんな事も知らず、学生時代は心がついていかずに夢を諦めようとした事もあります。その時、先生方は優しくそして又厳しく今までの自分、これからの自分について教えて下さいました。いつも学生を一番に考えて下さる先生方のおかげで私は夢を叶えることが出来ました。卒業後、思っていた以上に現場は忙しく即戦力を求められました。先生方から教えていただいた事を思い出しながら悪戦苦闘の毎日でした。先生方にお会いする度に学生時代を思い出し、心を新たに頑張っていました。その私が縁あって母校の教員として勤務し、二年が経とうとしています。医療現場とは全く異なる仕事内容、初めての担任業務と授業で不安や戸惑いがありましたが、学科の先生方、学生時代にお世話になった非常勤講師の方々に助けて頂き、そして学生から元気をもらい、多くの方に支えていただいています。

教員になり改めて難しいと感じる事があります。それは「人に伝える」ということです。歯科衛生士の仕事は小児から高齢者まで全ての人の口腔を管理し、食事をおいしく、楽しめるようにする事です。その為にむし歯予防、歯周病予防の専門的な知識・技術を日々勉強し身につけ、対象者に分かりやすく納得のいく説明をしなければいけません。現場は対象者の求めているものを一対一で伝えることが多く、伝わりやすい環境でした。今は、学生一人一人の受け取り方や理解の仕方が違います。一人一人と向き合い、その度確認しながら伝えていかなければいけません。気持ちを理解しながらも、歯科衛生士の先輩として多くの事を伝えていき、学生と共に私自身も教員として成長していきたいです。

熊本地震　被災地支援
ボランティアに参加して

介護福祉学科　専任教員
中森美恵子

四月二十四日から、学科内の協力を得て、職能団体である日本介護福祉士会からの災害ボランティア派遣要請を受け、自家用車で約五時間かけて熊本県益城町に現地入りした。地震から十日後の益城町は、道路際まで倒壊した家の瓦礫が迫っており、自衛隊や災害支援団体の車両が行き交っていた。はじめは五日間の滞在で、日中は介護老人福祉施設での業務の補助を行い、夜は避難所での夜勤を行った。誰にもある「日常」の有難さは、非日常に接してみなければ見えにくい。プライバシーは保障されず、水道、トイレ、電気が不自由な中で、日頃いかに恵まれているかを思い知ることになったが、そこで生活を続けなければならない避難者の大変さは、ほんの少しの滞在で理解できるものではないし、簡単にわかった気にもなれない。しかし、今回の活動によって、学生に伝えたいと思ったことの一つは、これから更に深く学んでいく医療・福祉の専門的知識・技術は、「誰かを支える手になりたい」と願った時に、ともすれば身一つであっても駆けつけて行動出来る力になれるのだということである。それをより大きく社会で活かしていくために、私たちは国家資格を目指して頑張っているのだということを指導していきたい。学生の一人一人がこんな思いを心にとめて、より充実した学生生活を送ってほしいと思っている。私自身も、ボランティア活動などの実践を継続して、自己研鑽に励んでいきたい。

「ヴィラ霧島さくら郷」入居者募集中

平成十四年五月に開設され、平成二十二年十二月に学校法人南学園の付属施設として新たにスタートした「ヴィラ霧島さくら郷」は近くに高千穂の峰を望み、遠くには桜島を眺望できる景勝の地で霧島神宮の麓に位置する素晴らしい場所にあります。春には桜吹雪の中に鶯が鳴き、夏には杉木立をわたる涼風が心地よく、秋には紅葉を愛で、冬は天然温泉のぬくもりが心身を癒してくれる暮らし・・・。そんな四季折々の自然の恵みが豊かにあるところです。

皆様方の身近に介護を必要とされる方々や予約を希望される方々がおられましたらどうぞご紹介くださいますようお願いいたします。

詳しくは、「ヴィラ霧島さくら郷」までお問い合わせください。（☎〇九九五―六四―八五八五）

新事務局長、広報部長に聞く

四月一日付けで、事務局長に市之瀬輝彦先生、広報部長に吉田義博先生が着任されました。
二人の先生方に今の気持ちや抱負を寄せていただきました。

縁（えにし）

事務局長　市之瀬輝彦

この度、四月一日より学校法人南学園鹿児島医療福祉専門学校事務局長として就任いたしました市之瀬輝彦と申します。よろしくお願いいたします。

昨年、八十八歳の一人暮らしの母が足を骨折し、約四か月入院生活を送りました。手術直後の主治医の話では、母ぐらいの高齢者は約半数はそのまま寝たきりになってしまうとのことで、大変心配をしました。ところが、手術直後から、看護師の方々が手厚く親身になって母の介護をしていただき、また、その後のリハビリでは、理学療法士の方に毎日丁寧に歩行訓練や念入りなマッサージをしていただきました。そのおかげで四か月で無事退院し、今では以前の生活に戻ることができました。医療の現場に携わる方々の職業人としての熱意と意識の高さに頭の下がる思いがしました。

奇しくも、建学の理念「真愛」のもとに、医療と福祉の職業人を育てている当学園で仕事をさせてもらうことになりました。「縁」を感じずにはおれませんが、これからの新たな出会いに期待しながら、本学生が医療・福祉の分野の立派な職業人として羽ばたいていけるよう応援していきたいと思います。

夢、実現

広報部長　吉田　義博

本年三月末に県立高等学校を最後に定年退職し、四月から本校広報部長として勤務することになりました吉田です。

私は、校長時代に生徒に夢を持つことが如何に大事であるかを訴えてきました。吉田松陰の「夢なき者に成功なし」の教え「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし、故に、夢なき者に成功なし」を話の中核におき、一人一人が夢を持ち、その夢を実現するために努力することの大切さを語りかけてきました。

私のこの思いは、少なからず理解され、多くの生徒が自分の夢を見つけるために努力し、夢を見つけ、その夢を実現するために精一杯頑張ってくれているものと思っています。

ここ鹿児島医療福祉専門学校で学ぶ学生の皆さんは、一人一人が自分の確かな夢を持ち、その夢を実現するために日々、一生懸命に努力し頑張っています。具体的な自分の夢を実現するために日夜努力している姿は、とても素晴らしく清清しさまで感じます。しかも医療従事者として社会に貢献しようという明確な意思を持って頑張っている姿は、尊敬に値するものであると思います。私は、そんな皆さんの手助けが少しでも出来ればと幸いです。

同窓会会長　理学療法学科　十二回生　有薗　潤一

平成二十八年六月より岩元前会長の後を受けて、同窓会会長を務めさせていただくことになりました理学療法学科十二回生卒業の有薗潤一と申します。初めてこのような職を務めることになり大変身の引き締まる思いが致します。

平成三十年には創立三十周年を迎える鹿児島医療福祉専門学校であります。創立三十周年式典も控えていますので同窓会としても何かしたいと考えており、母校と同窓会発展の為、微力ではありますが頑張る所存でございます。また私一人だけではなく一人でも多くの方々と発展させていきたいと考えていますので、皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

前同窓会会長　歯科衛生学科　十一回生　岩元　佳織

同窓会会長としての二年間を振り返ると、前会長や各役員の方々のサポートやアドバイスを頂きながら無事責務を果たすことができたのかなと思います。この期間は、とても充実しており貴重な体験をすることができました。会長一人の力では何もできませんが、役員や同窓会の皆さんの力をお借りして何とか役割を果たすことができたというのが実感です。

同窓会は、卒業生やお世話になった先生方と交流ができる素晴らしい場です。また、横のつながりと同時に縦のつながりを増やせる貴重な場です。この素敵な場がますます充実することを願っています。今後の同窓会のさらなる発展を祈っています。ありがとうございました。

後援会・同窓会役員

後援会役員紹介

４月６日、入学式終了後、後援会総会が開催され、今年度の役員が次のとおり決定しました。（敬称略）

会　長	本田康仁
副会長	坂元真奈美
〃	古殿よしえ
理　事	飯尾美和
〃	中村広美
〃	岩下守良
〃	下竹沢郎
〃	宮之前文子
〃	宮脇良子
〃	藤田久美
〃	神脇広美
〃	天野孝子
〃	萬福祐造
〃	峯苫やよい
〃	村岡二三代
〃	西豊彦
〃	冨田さおり
〃	角あけみ
監　事	青木理恵

同窓会役員紹介

同窓会総会が６月11日に行われ、今年度の役員が次のとおり決定しました。（敬称略）

会　長	有薗　潤一（P）
名誉会長	南　正義（理事長）
相談役	森永　茂樹（特別顧問）
顧　問	瀬戸上　護（学校長）
副会長	内村　貴子（N）
〃	的場　友美（D）
〃	中野慎之介（P）
〃	角囿　悟史（W）
〃	濵田　博士（B）
〃	瀬戸山由恵（M）
理　事	各学科代表４名（人数は、各学科によって変更可能）
監　事	黒岩　達士
書記・会計	田中　麗朗
	上園　翔真

N：看護学科
D：歯科衛生学科
P：理学療法学科
W：介護福祉学科
B：医療事務学科
M：助産学科

総会に続いて行われた懇親会には、卒業生・教職員合わせて145名が参加し、在学時代を振り返りながら、和やかに懇談が行われました。

来年度の同窓会総会も６月の第２土曜日です。多数のご参加をお待ちしています。

入学試験日程

◆看護学科・歯科衛生学科・理学療法学科・介護福祉学科

入試区分	出願期間	試験日
推薦・社会人一次	平成28年10月１日（土）～10月11日（火）	平成28年10月15日（土）
一般一次・社会人二次	平成28年10月17日（月）～11月１日（火）	平成28年11月５日（土）
一般二次・社会人三次	平成28年11月14日（月）～11月29日（火）	平成28年12月３日（土）
一般三次・社会人四次	平成28年12月12日（月）～平成29年１月31日（火）	平成29年２月４日（土）
一般四次・社会人五次	平成29年２月13日（月）～３月７日（火）	平成29年３月11日（土）
一般五次・社会人六次	平成29年３月13日（月）～３月21日（火）	平成29年３月23日（木）

募集学科	看護学科	歯科衛生学科	理学療法学科	介護福祉学科
入学定員	80人（男・女）	40人（女）	80人（男・女）	40人（男・女）
修学年限	３年	３年	３年	２年

◆助産学科

募集人員	25人（女）	試験日	平成28年12月17日（土）
修学年限	１年	出願期間	平成28年11月14日（月）～平成28年12月９日（金）

※詳細については「平成29年度学生募集要項」及びホームページをご覧ください。

南学園　検索
クリック

社会人入学生に朗報!!「専門実践教育訓練の教育訓練給付金」制度が３学科で受けられます!!

入学金や授業料等が対象となる納入金の60%（３年間で上限144万円）の給付を受けられる制度です。平成28年度は、歯科衛生学科・助産学科・理学療法学科の対象となる社会人入学生が「専門実践教育訓練の教育訓練給付金」を受けられることとなりました。平成29年度は介護福祉学科も対象になる予定です。

※詳しくは、本校のホームページをご確認ください。

ほのぼの通信

学校には、外部から電話やメールで多くの情報が寄せられる。いただいた御意見や御指摘にはいろいろと考えさせられるものが多い中で、時には心が和むような情報もある。

先日、本校の看護学科男子学生が困っているお年寄りを助けてくれたとの情報が寄せられた。その男子学生は、当たり前のように困っているお年寄りを手助けし、何事もなく去っていったとのことである。その情報提供者は、本校で良い教育がなされていると感じられたそうだ。

これは、まさに本校の建学の理念である「真愛」の心そのものである。困っている人を目にした時、さりげなく自然に手助けできることは、簡単なようでなかなかできないことである。それができるためには、常日頃から真愛の心を育てることが不可欠であろう。

本校で学ぶ学生は、将来、医療・福祉の分野で働くという具体的な目標を持っている。その夢を実現するために日々努力し頑張っているわけであるが、この夢は、世の中にとってなくてはならないものである。

この素晴らしい夢実現のために、日夜奮闘している本校の学生に心からエールを送りたい。